

家庭科「家庭基礎」学習指導案

広島県立海田高等学校
教諭 久保 紗和子

- 1 日 時 令和2年11月5日(木) 6時限 14:10～15:00 (50分)
- 2 場 所 1年3組HR教室
- 3 学年・学級 普通科第1学年3組34名(男子16名, 女子18名)
- 4 準 備 物 教科書「家庭基礎」(実教出版), 資料集「2020 最新生活ハンドブック」(第一学習社), ワークシート, 視聴覚機器
- 5 単 元 名 子どもの生活

6 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」の2内容(1)「人の一生と家族・家庭及び福祉」のイ「子どもの発達と保育」の(ア)「子どもの生活と家族・家庭」に位置付けられている。ここでは、子どもは生活の中で人とのかかわりを通して育つことから、最も身近な存在である親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいかなどの保育の在り方について考えさせるとともに、親や家族、家庭生活が果たす役割について認識させる。また、乳幼児の健やかな発達のためには発達段階や個性に応じた適切な保育が重要であることに気付かせるとともに、乳幼児の生活について、遊び、生活習慣の形成、食事、健康管理と安全などについての概要を理解させることをねらいとしている。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートでは、「乳幼児と日ごろからかかわっている」と答えた生徒は約11%で、ほとんどの生徒は日常で乳幼児とかかわる機会がないにもかかわらず、約73%の生徒が「子どもが好き」と答えている。また、子どものイメージを自由記述させたところ、子どもが苦手と答えた生徒の中には「うるさい」「口が悪い」というものも見られたが、多くの生徒が「かわいい」「元気」「無邪気」と記入していた。それは、子どもが好きと答えた生徒も苦手と答えた生徒にも大差はなく、多くの生徒は、子どもに対してプラスのイメージをもっている。中学時に保育実習を通して、乳幼児と交流した経験をもつ生徒は約79%おり、その内容としては「自分たちで考えたおもちゃで遊んだ」というものが多い。また、乳幼児と交流した経験をもたない生徒も中学時の保育の授業で絵本作りやおもちゃ作りを行った経験をもち、幼児の発達に適した遊び道具の選び方や、遊び方、遊びの意義等については理解していると考えられる。乳幼児に関するある程度の知識はあるものの、高校1年生にとって親となることは遠い未来のことであり、日常生活で乳幼児とかかわる機会がない生徒にとって子どもとどのようにかかわったらよいかなど保育の在り方を考えることは難しいことである。

(3) 指導観

単元の導入で、「最も身近な存在である親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいか」という課題を設定し、学んだ知識を活用し、その課題の解決を図る問題解決的な学習を取り入れる。また、日常生活で乳幼児とのかかわる機会がない生徒にとって、子どもの生活がイメージできるように、0歳児と4歳児を預かり一緒に遊ぶという場面等を設定し、それを基に子どもとどのようにかかわったらよいか考えさせる展開とする。

さらに、乳幼児の動画を見せたり、生徒自身の子どものころを思い出させたりすることで子どもに対するイメージをより具体的に作る。また、互いの考えを伝えあう活動を取り入れることで、自らの考えや集団の考えを発展させ、乳幼児の生活についての理解を促す。

これらの活動を通して、乳幼児の健やかな発達のためには発達段階や個性に応じた適切な保育が重要であることに気づかせ、親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいかなどの保育の在り方について、生徒自身が考え、答えを見付けられるように指導していきたい。

7 単元の見目標

- (1) 子どもの生活について関心をもち、問題解決的な学習を通して主体的に学習活動に取り組む。(関心・意欲・態度)
- (2) 親や家族が生活習慣の形成、健康管理と安全、食生活、衣生活、遊びについて、子どもとどのようにかかわったらよいか、保育の在り方について思考を深め、親や家族が果たす役割について適切に判断し、表現できる。(思考・判断・表現)
- (3) 乳幼児の生活についての概要および、乳幼児期には基本的な生活習慣の形成が重要であることを理解し、親や家族が子どもとのかかわる際に必要な知識を身に付ける。(知識・理解)

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
子どもの生活について関心をもち、問題解決的な学習を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。	親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいか、保育の在り方について思考を深め、親や家族が果たす役割について適切に判断し、表現している。	遊び、生活習慣の形成、食事、健康管理と安全などについての概要および、乳幼児期には基本的な生活習慣の形成が重要であることを理解し、親や家族が子どもとのかかわる際に必要な知識を身に付けている。

9 指導と評価の計画(全4時間)

時	学習内容	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	子どもの生活習慣と子どもの人間形成、親の役割		○		○	- 生活習慣を形成する際に、親や家族が子どもとどのように関わったらよいか思考を深め、親や家族が果たす役割について適切に判断、表現している。 - 生活習慣の形成の概要と乳幼児期には基本的な生活習慣の形成が重要であることを理解している。	ワークシート 定期試験

2	健康管理と安全と親の役割	○			○	・健康管理と安全について関心を持ち，問題解決的な学習を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。 ・健康管理と安全について概要を理解し，親や家族が子どもとかかわる際に必要な知識を身に付けている。	ワークシート 定期試験
3	乳幼児の食生活・衣生活	○			○	・乳幼児の食生活・衣生活について関心を持ち，問題解決的な学習を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。 ・乳幼児の食生活・衣生活の概要を理解し，親や家族が子どもとかかわる際に必要な知識を身に付けている。	ワークシート 定期試験
4	子どもと遊び（本時）		◎		○	・遊びの概要を理解している。 ・子どもの豊かな遊びを保障するための保育の在り方や親や家族が果たす役割について思考を深め，表現している。	定期試験 ワークシート

10 本時の展開

（１）本時の目標

遊びの概要を理解するとともに，子どもの豊かな遊びを保障するための保育の在り方や親や家族などの周りの大人の果たす役割について思考を深め，表現することができる。

（２）観点別評価規準

思考・判断・表現	知識・理解
子どもの豊かな遊びを保障するための保育の在り方や親や家族などの周りの大人の果たす役割について思考を深め，表現している。	遊びの概要を理解している。

（３）学習展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆努力を要する生徒への手立て	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	・生徒自身が幼いころに好きだった遊びを振り返る。 ・本時の目標を設定する。	・事前アンケートの結果を発表する。 ・幼いころに遊んでいたときに周りの大人はどのようにかかわっていたのかを考えさせる。	
	子どもの豊かな遊びを守るために，大人がどのようにかかわればよいかを考え，まとめよう。		

展開 (40分)	・子どもの発達に伴う遊びの形態と遊びの種類の変化を知る。(10分) ・事例を読んで、子どもが経験したことは何か考え、発表する。(10分) ・遊びに重要な4つの要素について理解する(5分) ・4つの要素が確保しにくくなった状況が子どもに与える影響について思考ツールを使って考える。(5分) ・遊びの4つの要素が確保しにくくなった最近の生活状況の中で子どもの遊びを保障するための大人のかかわり方について思考ツールを使って考える。(5分) ・思考ツールを使って考えた内容を文章でまとめる。(5分)	・視聴覚機器を使い、具体的なイメージをもたせる。 ・A児(4歳)の泥団子づくりの事例を提示し、遊びを通して、子どもは多様な経験をしていることに気付かせる。 ・発表内容を遊びの4つの要素にまとめながら板書する。 ・子どもの遊びには、仲間・空間・時間・遊び方の4つの要素が重要であることを説明する。 ・最近の子どもを取り巻く生活環境の変化から、今は4つの要素を確保しにくくなっており、その状況を説明する。 ・高校生の立場、親の立場、地域の一員の立場で自分ならどのようにかかわるかを考えるように促し、それぞれ、記入の際に立場が分かるように記入するよう指示する。 ◆書きやすい項目から書くように促す。 ・思考ツールで考えた意見を文章で表すように指示する。	・遊びの概要を理解している。 (定期試験) ・子どもの豊かな遊びを保障するための保育の在り方や親や家族などの周りの大人が果たす役割について思考を深め、表現している。 (ワークシート)
まとめ (5分)	・ペアになり、意見交換を行う。(3分) ・本時を振り返り、自己評価を行う。(2分)	・ペアでワークシートを交換するように促す。 ・子どもと遊びについてもっと学びたいことや知りたいと思ったことをまとめるように指示する。	

11 本時の評価基準（ルーブリック）

	C	B	A
思考・ 判断・ 表現	子どもの豊かな遊びを保障するための方策を4つの要素から考えられておらず、十分に考察できていない。 （記入例） 親や家族は子どもが楽しめるおもちゃを用意して、一緒に遊ぶことが大切だ。	子どもの豊かな遊びを保障するために大人として自分ができることを4つの要素を踏まえ、考察できている。 （記入例） 私は、子どもが豊かな自然体験ができるように、将来は自然の豊かな場所に住み、一緒に遊べる時間を確保したりしたい。	子どもの豊かな遊びを保障するために今と将来にわたって自分ができることを4つの要素を踏まえ、具体的に考察できている。 （記入例） 私は大人として、地域の清掃活動を通して、環境保全に取り組んだり、近所の子どもと一緒に外で遊び、親がいなくても安全に遊べる環境を作ったりしたい。また、将来は、子どもだけでも安心して遊べる場所を地域の中に作っていきたい。